

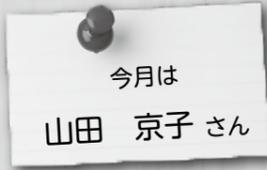
つむぐ通信

シリーズ連載 その99

「つむぐ通信」では、地域おこし協力隊員が、月替わりで活動内容やイベントなどのお知らせ、地域おこしに関する企画や提案を紹介していきます。

【江田島市地域おこし協力隊】

国際交流支援員	大方 芳恵
えたじま里海ナビゲーター	守本 怜矢
観光事業総合プランナー	竹林 健一
観光事業総合プランナー	山田 京子



facebookで情報を発信しています

江田島市地域おこし協力隊

地域おこし協力隊の任命を受け、3か月が過ぎようとしています。季節は春から夏に変わろうとしており、江田島の綺麗な海や山を眺めても誤魔化せない暑さとの闘いの日々がやって来ましたが、どうか日々の生活や業務にも少しずつ慣れてきたところです。

そんな中、先日「江田島暮らしイメージツアー」という催しが開催され、10人余りの方が参加されました。私が最終的に江田島市での生活を決めるきっかけとなったのも昨年そのツアーに参加したことでした。現在の私の住まいはその時に案内された物件のうちの一つなのですが、その家に皆さんお立ち寄りになり、島での暮らしを見ていただきました。

その中のご夫婦が昨年も参加されていたご夫婦で、ありがたいことに私を覚えておられ、声をかけて下さいました。「山田さん、どうしてるんだろ？ねって話してたんですよ。」と言われ、もう1年経ったのか…と感慨深いものがありました。

参加して下さいました皆さまに少しでも参考にして頂けたかな？また私と同じように島に魅せられて実際に江田島での生活を始めて下さる方が一人でも多く増えるといいな、と思っています。

そして、今私はこの秋、飛渡瀬に新設する特産品販売所のオープンに向け様々な活動をしております。

ETAJIMA GoON! Vol.38

“つなぐ・つながる”をテーマに市内で活躍する人やお店をリレー形式で紹介！

有限会社和光葬祭（江田島町）

みさき ありさ
三崎 有紗さん

お客様に 寄りそう心と 大切な方への思いを 形にすること

【企業紹介】江田島町に1982年設立。どんな宗教にも対応可能な「なごみ会館」（大柿町飛渡瀬）や専門スタッフによる美装納棺など、都市部の時流をいち早く取り入れた。地元に通じた従業員が活躍する、地域密着型企业。



大阪府出身の三崎さんが、江田島市へ来たのは成人式を終えてすぐのこと。父の昇治さん（現・代表取締役）は家業を継ぐため、都市部での修行に通算25年、祖父の知人の縁で、大阪で葬祭業に就いた。三崎さんは父の帰郷に付き、和光葬祭の社員となっ

た。創業者である祖父や父の仕事に昔から興味があり、いつかは葬祭関係の仕事に携わりたい思いがあった。8年目の現在、式場対応から日程の段取り、後方支援まで幅広く関わる。24時間年中無休の対応に激務の印象があるが、従業員の

希望の休日確保するなど労働環境の向上を図る。一方、中高年層が中心の従業員を案じ、今後の増員も考えている。繊細で、多様な対応の葬祭業において「大切な方への思いを形に、お客様に寄りそうことが大事」と三崎さんは語る。和光葬祭では入会金の1万円のみで葬儀費用の軽減などサービスが受けられる会員制「なごみの会」を設け、家族を含めた連絡手段としても



▲大柿町飛渡瀬の海沿いにあるなごみ会館の館内。中規模用祭壇①と、約150人収容可能なやすらぎホールの祭壇②。家族葬から社葬まで柔軟に対応。コロナ以降は参列する人数の縮小に応じて、中規模用で行われることも



▲本社では仏具や線香なども販売。進物用箱入り線香や天然石の数珠も揃える。花立や仏飯置きなど一部商品は半額セールも

活用をすすめる。また「周りに迷惑をかけたくない」と葬儀の事前相談※に訪れる人も多い。「年齢に関わらず、ある日突然、何があるか分からないというのは常に思うんです。その時が来るまで考えたくないのですが、実際来た時にはその余裕が無いことが多いと感じます」と三崎さん。今後について「いろんなことを逆算して考えていかなないと早くも思案を巡らせる。地域密着型企业としての在り方、人との繋がりが今後継承者としての課題も多い。「次の次を見ている『速さ』が違う」と大阪の流れを体感した父は、労働環境の改善を図り、都市部の時流を取り入れた。父の背を見てきた三崎さんが、この先どう成し遂げるか注目したい。

新施設の名称公募や、どのような店舗にすればご来店の皆さまに喜んでいただけるのか、居心地の良い場所にできるのかなど、各地の特産品販売所や道の駅など業態の似通ったスポットをインターネットや本などで片っ端から調べては、飛渡瀬に置き換えて写真真を描くという作業に明け暮れています。

また、先日は因島など海沿いの町の観光協会や特産品販売所（主に土産物売り場）の視察にも行き、どのような陳列がされてお客さまがどのような商品を見ておられるのか、どのようなものが実際に手に取ってもらえるのかなどを見てきました。

その地域にはどのような特色があり、どのような体験（行事）ができるのか、

どのようにそれを伝えようとしているのかなどを調べ、良いところはどんどん取り入れて「いつ覗いても楽しい場所」になるように工夫したいと思っています。とにかくすべてが手探りであり、もっともっと見聞を広げないといけないと感じています。

毎日新名称の応募が寄せられており、応募いただいた皆さまがそれぞれに江田島市への思いを込めて名称を考えてくださっていることが伝わってきます。この記事が掲載されることにはもしかしたら新名称が誕生しているかも知れません。その思いのこもった名称や皆さまの期待にできるだけ応えることのできる施設に仕上がるよう精一杯プランニングしていきたいと思えます。



▲因島観光協会外壁に貼られていた地元の星「ポルノグラフィティ」への寄せ書き

広報掲載から翌月頃にA3判フルカラー版を江田島市ホームページで更新します▼

企業情報 所江田島町鷲部3丁目1-8 24時間年中無休 ☎(0823)42-4444

公式HP



※事前相談（無料）…費用や進行など全体的な相談のほか「故人がファンだった歌手の歌を、送り出すときに流してほしい」「生前に作った手芸品を葬儀場の展示や会葬品に」「菊よりもピンク色の花で飾りたい」のような葬儀内容の要望にもきめ細かく応える。

